

# 2019年度 第2四半期 決算概要

---

---

## I. 2019年度 上期 連結業績概要

## II. 補足資料

---

---

シャープ株式会社

2019年11月1日

### 【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

※前年増減額等は、表示された億円単位の金額を元に算出しております。

## I . 2019年度 上期 連結業績概要

**SHARP**

1

- ・ 本日はご多忙な中、お集まり頂き ありがとうございます。  
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイント資料に沿って、説明いたします。

- 米中貿易摩擦が長期化するなど、  
厳しい事業環境は継続したものの、  
2019年度 第2四半期も、安定した収益を確保
- 四半期ベースでは、  
2018年度 第4四半期を底に回復基調
- 第2四半期の各利益は、第1四半期からさらに伸長、  
特に営業利益は、大幅に回復し、前年同期も上回る

**SHARP**

2

- まず、2019年度 第2四半期の連結業績の概要です。
- 米中貿易摩擦が長期化していることもあり、  
引き続き、厳しい事業環境となりましたが、  
2019年度の第2四半期につきましても、  
安定した収益を確保することができております。
- 業績は、2018年度の第4四半期を底に回復基調にあり、  
第2四半期の各利益は、第1四半期から引き続き伸長しております。  
特に、営業利益は大幅に回復しており、前年同期も上回りました。

# 2019年度 第2四半期 連結業績概要(2)

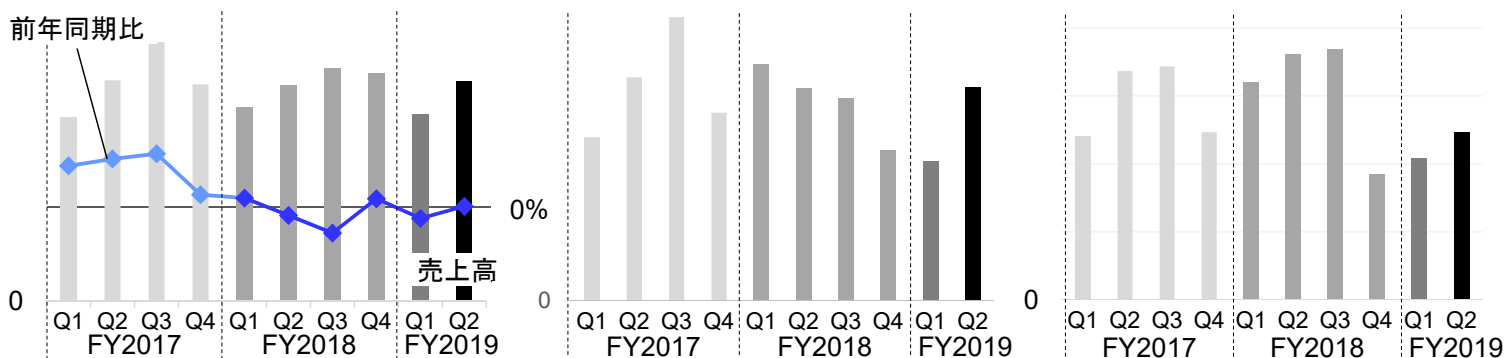
(単位:十億円)

	2018年度				2019年度		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	前同比
売上高	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9	605.6	+1.8%
営業利益	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)	15.8 (2.5%)	14.6 (2.8%)	22.3 (3.7%)	+0.6%
経常利益	21.2 (4.0%)	21.9 (3.7%)	18.8 (2.9%)	6.9 (1.1%)	13.9 (2.7%)	19.1 (3.2%)	-12.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	19.2 (3.6%)	21.7 (3.7%)	22.1 (3.4%)	11.1 (1.8%)	12.5 (2.4%)	14.8 (2.5%)	-31.6%
平均為替レート							
ドル円	108.07	110.46	111.90	109.21	108.90	106.35	
ユーロ円	128.56	128.12	127.28	123.66	121.99	117.84	

売上高

営業利益

親会社株主に帰属する四半期純利益



SHARP

3

・ 次のスライドは、2019年度 第2四半期の業績数値です。

・ 売上高は、前年同期を上回る 6,056億円となりました。

・ 利益は、  
営業利益が 223億円、  
経常利益が 191億円、  
親会社株主に帰属する四半期純利益が 148億円となりました。

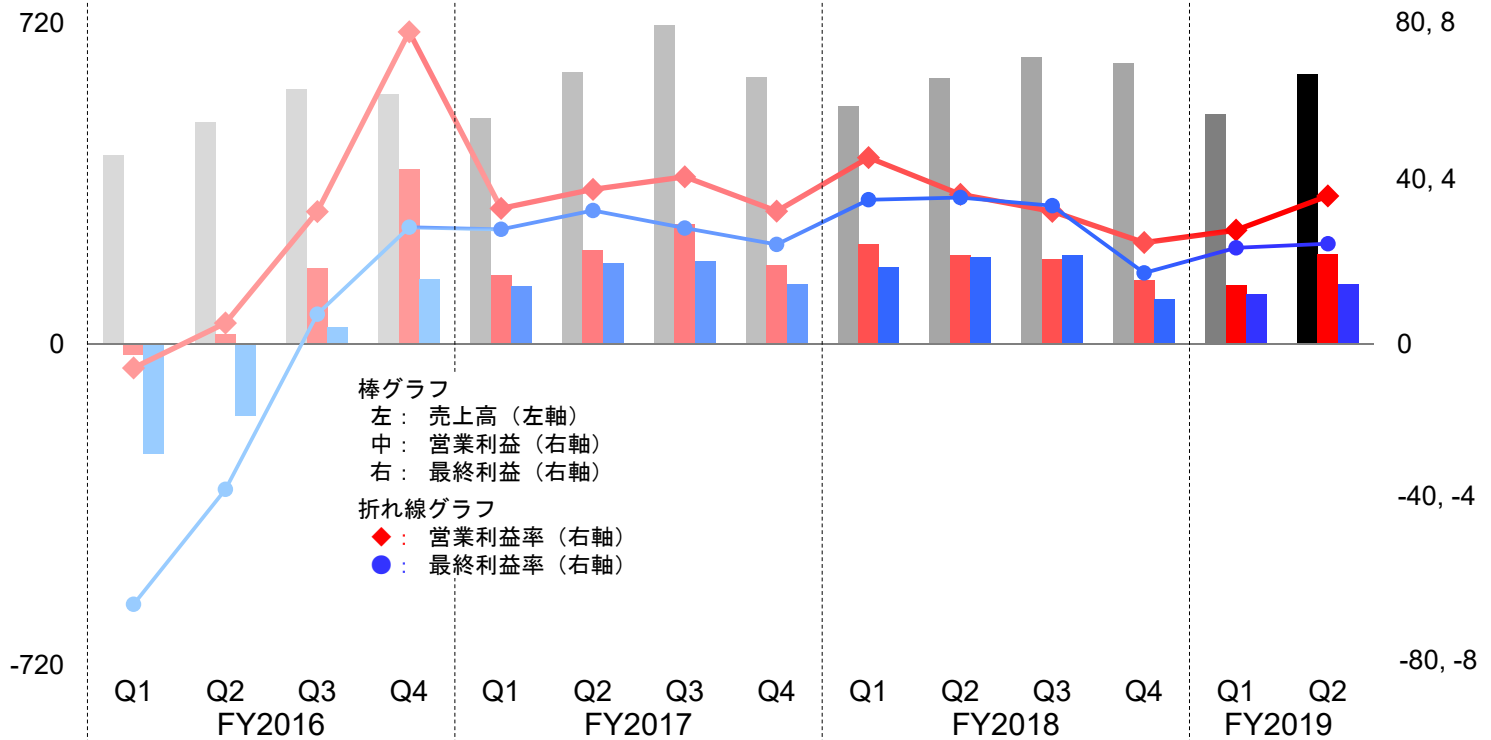
為替差損益などの営業外損益や、法人税等が変動した影響もあり、  
経常利益・最終利益は、前年同期に及びませんでした、  
本業の収支である営業利益は、前年同期を上回っております。

# 2019年度 第2四半期 連結業績概要(3)

- ・2019年度 第2四半期の業績は、2018年度 第4四半期を底に引き続き回復基調
- ・営業利益率・最終利益率は、2四半期連続で回復
- 特に、営業利益については、第1四半期から、大幅に伸長

(単位:十億円)

(単位:十億円, %)



SHARP

4

- ・ 次のスライドは、四半期毎の業績の推移です。
- ・ 2019年度 第2四半期の業績は、2018年度 第4四半期を底に、引き続き 回復基調にあります。
- ・ ご覧のように、  
営業利益率と最終利益率は、  
第1四半期に続き、2四半期連続で回復しております。

また、金額ベースでも、  
2018年度の第4四半期に対して、  
営業利益が 40.6%増、最終利益が 33.3%増となっており、  
それぞれ大幅に伸長しております。

# 2019年度 上期 連結業績概要

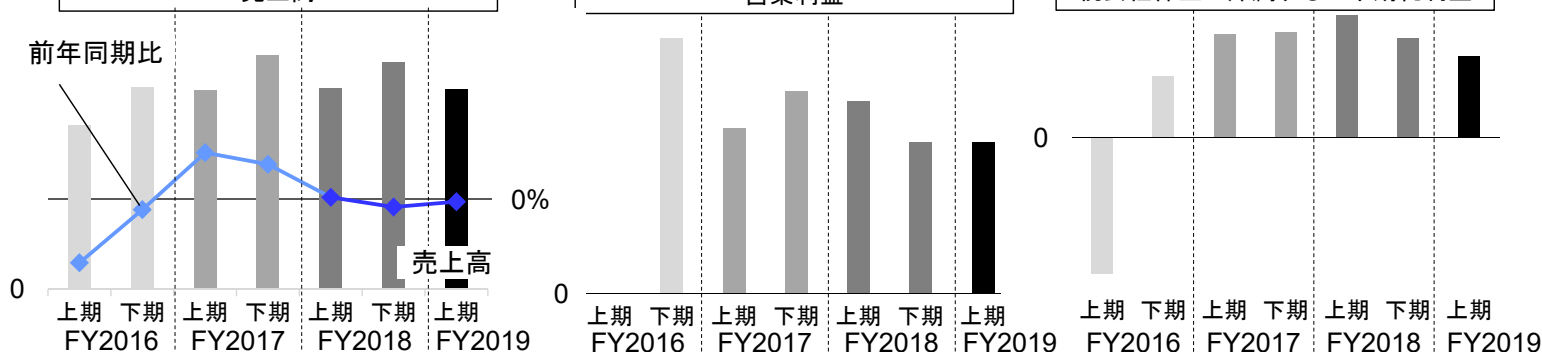
(単位:十億円)

	2018年度			2019年度		2019年度 上期予想 (5/9)
	上期	下期	年間	上期	前同比	
売上高	1,129.0	1,271.0	2,400.0	1,120.6	-0.7%	1,200.0
営業利益	47.0 (4.2%)	37.1 (2.9%)	84.1 (3.5%)	36.9 (3.3%)	-21.4%	44.0 (3.7%)
経常利益	43.2 (3.8%)	25.7 (2.0%)	69.0 (2.9%)	33.1 (3.0%)	-23.4%	42.0 (3.5%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	40.9 (3.6%)	33.2 (2.6%)	74.2 (3.1%)	27.3 (2.4%)	-33.1%	37.0 (3.1%)
平均為替レート						
ドル円	109.27	110.55	109.91	107.63		
ユーロ円	128.34	125.47	126.90	119.91		

売上高

営業利益

親会社株主に帰属する四半期純利益



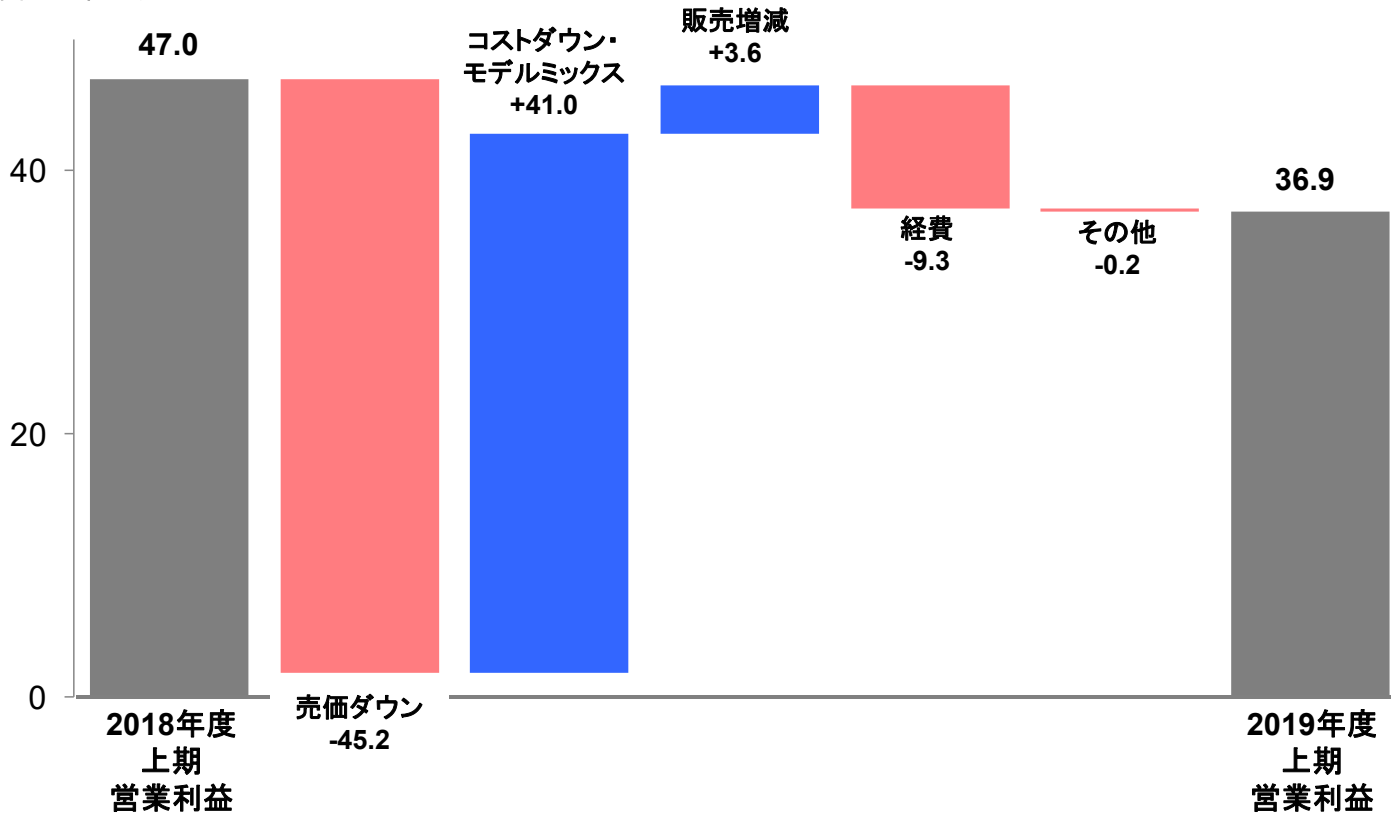
SHARP

5

- ・ 次のスライドは、2019年度 上期の業績数値です。
- ・ 売上高は、1兆1,206億円となりました。
- ・ 利益については、  
営業利益が 369億円、  
経常利益が 331億円、  
親会社株主に帰属する四半期純利益が 273億円となりました。

# 2019年度 上期 営業利益 要因別増減分析(対前年同期)

(単位:十億円)



**SHARP**

6

- ・ 次のグラフは、前年同期からの 営業利益の増減を 要因別にまとめたものです。
- ・ 「売価ダウン」による 452億円の収益の減少、  
「コストダウン・モデルミックス」による 410億円の収益の改善、  
「販売増減」による 36億円の利益増、  
「経費」の増加による 93億円の収支影響などがありました。

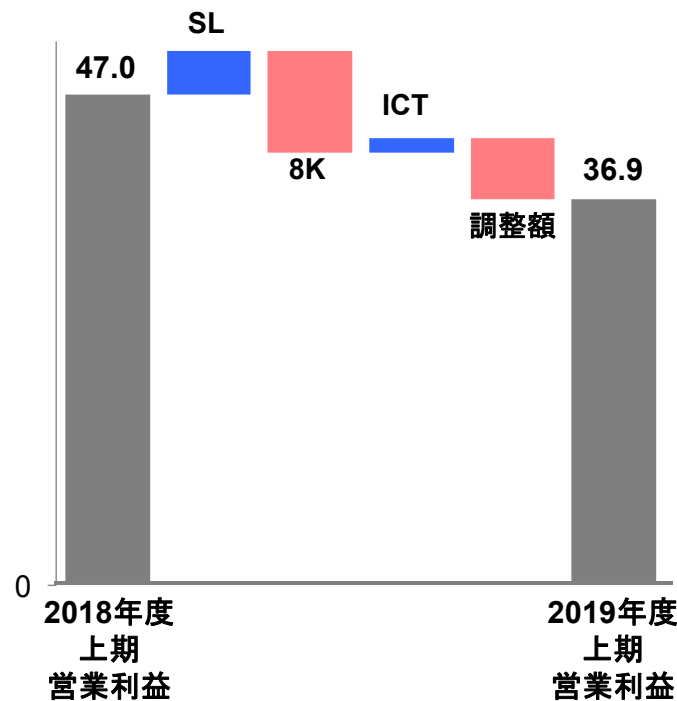
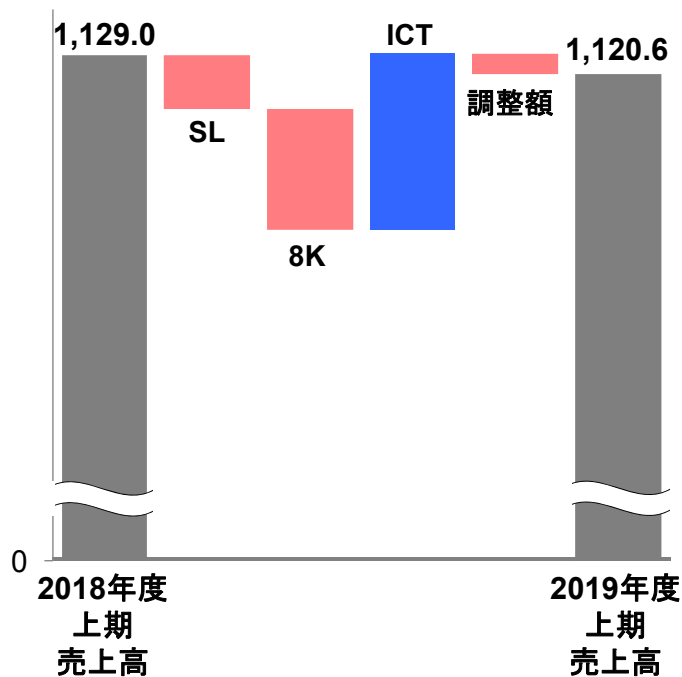
# 2019年度 上期 セグメント別増減分析(対前年同期)

売上高

営業利益

(単位:十億円)

(単位:十億円)



SL :スマートライフ

8K :8Kエコシステム

ICT :ICT

**SHARP**

7

・ 次のグラフは、前年同期からの売上高と営業利益の増減をセグメント別にまとめております。

・ 売上高については、ICTが増加した一方、スマートライフと8K エコシステムの販売が減少しました。

利益については、

販売減に伴い8K エコシステムが 減益となったものの、

売上が伸長したICTに加え、

販売減の影響をコストダウンなどでカバーしたスマートライフも増益となりました。

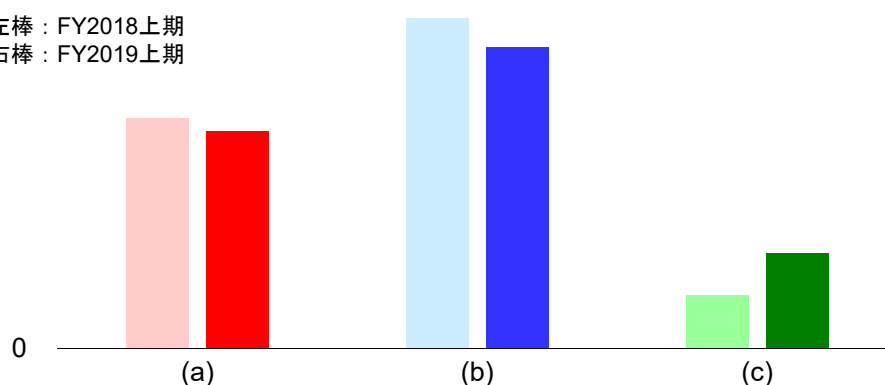


# セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2018年度						2019年度			
	Q1	Q2	上期	Q3	Q4	下期	Q1	Q2	上期	前同比
(a) スマートライフ	203.1	235.3	438.4	233.1	224.9	458.1	180.6	233.3	414.0	-5.6%
(b) 8Kエコシステム	291.1	337.6	628.7	350.4	334.2	684.7	262.5	311.8	574.4	-8.6%
(c) ICT	56.9	43.5	100.5	78.2	104.1	182.3	96.5	83.7	180.3	+79.4%
小計	551.3	616.4	1,167.8	661.8	663.4	1,325.2	539.8	628.9	1,168.8	+0.1%
調整額	-17.4	-21.3	-38.7	-19.3	-34.8	-54.2	-24.8	-23.3	-48.1	-
合計	533.8	595.1	1,129.0	642.5	628.5	1,271.0	514.9	605.6	1,120.6	-0.7%

左棒: FY2018上期  
右棒: FY2019上期



SHARP

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

8

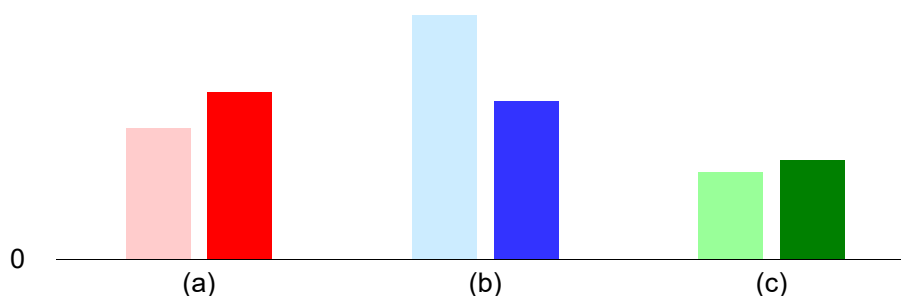
- ・ 次のスライドは、セグメント別 売上高の一覧です。
- ・ スマートライフの上期の売上高は、前年同期比 5.6%減の 4,140億円となりました。カメラモジュールやセンサーモジュールなどのデバイス事業が減収となりました。一方、白物家電は、日本が冷夏となった影響を受けたものの、エアコンや冷蔵庫、洗濯機が国内外で伸長し、2桁に迫る増収となっております。なお、デバイス事業は、第1四半期こそ 前年同期を大きく下回りましたが、第2四半期は、第1四半期から、大きく伸長しております。
- ・ 8K エコシステムは、8.6%減の 5,744億円となりました。PCやタブレット向けのパネルは大きく伸長しましたが、市況の影響から、車載向けパネルが 前年同期を下回ったほか、完成品のテレビが、国内や中国、欧州などで減収となりました。また、スマートフォン用パネルは、前年同期には及ばなかったものの、需要の回復もあり、第1四半期から第2四半期にかけて、大きく伸長しております。
- ・ ICTは、79.4%増の 1,803億円となりました。通信は、キャリアの料金体系変更の影響などから、前年同期を下回りましたが、Dynabook株式会社を連結した効果もあり、大幅に伸長しました。

# セグメント別営業利益

※()内の数字は営業利益率です。(単位:十億円)

	2018年度						2019年度			
	Q1	Q2	上期	Q3	Q4	下期	Q1	Q2	上期	前同比
(a) スマートライフ	5.6 (2.8%)	8.9 (3.8%)	14.5 (3.3%)	11.1 (4.8%)	5.1 (2.3%)	16.3 (3.6%)	6.2 (3.5%)	12.4 (5.3%)	18.6 (4.5%)	+27.9%
(b) 8Kエコシステム	14.1 (4.9%)	13.1 (3.9%)	27.3 (4.3%)	13.2 (3.8%)	6.8 (2.1%)	20.0 (2.9%)	6.5 (2.5%)	11.0 (3.5%)	17.6 (3.1%)	-35.5%
(c) ICT	7.3 (12.9%)	2.3 (5.5%)	9.7 (9.7%)	2.8 (3.7%)	8.7 (8.4%)	11.6 (6.4%)	7.3 (7.6%)	3.7 (4.5%)	11.0 (6.1%)	+14.0%
小計	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)	51.6 (4.4%)	27.2 (4.1%)	20.8 (3.1%)	48.0 (3.6%)	20.1 (3.7%)	27.2 (4.3%)	47.3 (4.1%)	-8.3%
調整額	-2.2	-2.3	-4.6	-5.9	-4.9	-10.9	-5.5	-4.8	-10.4	-
合計	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	47.0 (4.2%)	21.2 (3.3%)	15.8 (2.5%)	37.1 (2.9%)	14.6 (2.8%)	22.3 (3.7%)	36.9 (3.3%)	-21.4%

左棒：FY2018上期  
右棒：FY2019上期



SHARP

9

- ・ 続いては、セグメント別営業利益の一覧になります。  
各セグメントとも黒字になっております。
- ・ スマートライフの上期の営業利益は、  
前年同期比 27.9%増の 186億円となりました。  
白物家電が増収となったことに加え、コストダウンによる効果などもありました。  
なお、デバイス事業につきましても、販売の回復に伴い、  
第2四半期にかけて、収益が回復しております。
- ・ 8K エコシステムは、前年同期比 35.5%減の 176億円となりました。  
厳しい市場環境となりましたが、コストダウンを推進したこともあり、  
黒字を継続することができております。  
なお、付加価値の高い中小型パネルの比率が高いことなどから、  
ディスプレイ事業につきましても、黒字を確保しております。
- ・ ICTは、前年同期比 14.0%増の 110億円となりました。  
通信事業は、販売減の影響で 減益となったものの、  
引き続き 安定的に収益を計上しており、  
Dynabook株式会社も、前年度の下期に続き、黒字となっております。

# 営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度			
	Q1	Q2	上期	Q1	Q2	上期	前同 増減額
営業利益	24.8	22.2	47.0	14.6	22.3	36.9	-10.1
営業外損益	-3.5	-0.2	-3.7	-0.6	-3.1	-3.8	-0.1
内:支払利息	-1.1	-1.0	-2.1	-1.2	-1.0	-2.3	-0.2
為替差損益	-4.6	+0.9	-3.6	+0.1	-0.7	-0.5	+3.1
持分法による投資損益	-2.3	-0.9	-3.2	-0.9	-1.6	-2.5	+0.7
経常利益	21.2	21.9	43.2	13.9	19.1	33.1	-10.1
特別損益	+0.8	+0.5	+1.3	+0.0	+0.1	+0.1	-1.2
税前利益	22.1	22.4	44.5	13.9	19.3	33.2	-11.3
法人税等 他	-2.9	-0.6	-3.6	-1.4	-4.4	-5.8	-2.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	19.2	21.7	40.9	12.5	14.8	27.3	-13.6

**SHARP**

10

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ ご覧のように、2019年度 上期には、  
大きな「営業外損益」、「特別損益」はありませんでした。

# 連結貸借対照表推移

- ・現預金は、社債の償還などにより、6月末から減少
- ・安定的な利益の計上により、純資産・自己資本比率は上昇

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度			
	3月末	6月末	9月末	3月末	6月末	9月末	
現預金	266.6	238.4	211.7	支払手形・買掛金	410.3	379.2	379.4
受取手形・売掛金	539.9	497.1	510.0	短期借入金	81.4	205.9	219.2
たな卸資産	243.8	271.9	268.1	1年内社債	30.0	30.0	0.0
その他	90.9	110.3	120.7	その他	291.3	288.6	300.8
<b>流動資産計</b>	<b>1,141.3</b>	<b>1,117.9</b>	<b>1,110.7</b>	<b>流動負債計</b>	<b>813.1</b>	<b>903.9</b>	<b>899.5</b>
有形固定資産	405.0	405.8	410.8	社債	0.0	0.0	0.0
無形固定資産	39.6	39.3	43.3	長期借入金	538.2	537.7	537.3
投資その他資産	280.2	283.3	300.3	その他	142.5	137.3	135.2
<b>固定資産計</b>	<b>724.9</b>	<b>728.5</b>	<b>754.5</b>	<b>固定負債計</b>	<b>680.7</b>	<b>675.1</b>	<b>672.5</b>
繰延資産	0.0	0.0	0.0	<b>純資産</b>	<b>372.4</b>	<b>267.3</b>	<b>293.1</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,866.3</b>	<b>1,846.4</b>	<b>1,865.2</b>	<b>負債純資産合計</b>	<b>1,866.3</b>	<b>1,846.4</b>	<b>1,865.2</b>
期末日レート							
ドル円	110.01	106.75	106.96	自己資本比率	18.8%	13.5%	14.7%
ユーロ円	123.06	120.96	116.54	自己資本	350.6	248.7	273.8

SHARP

11

- ・ 次のスライドは、貸借対照表の推移です。
- ・ 社債の償還などにより、9月末の「現預金」は6月末から減少し、2,117億円となりました。

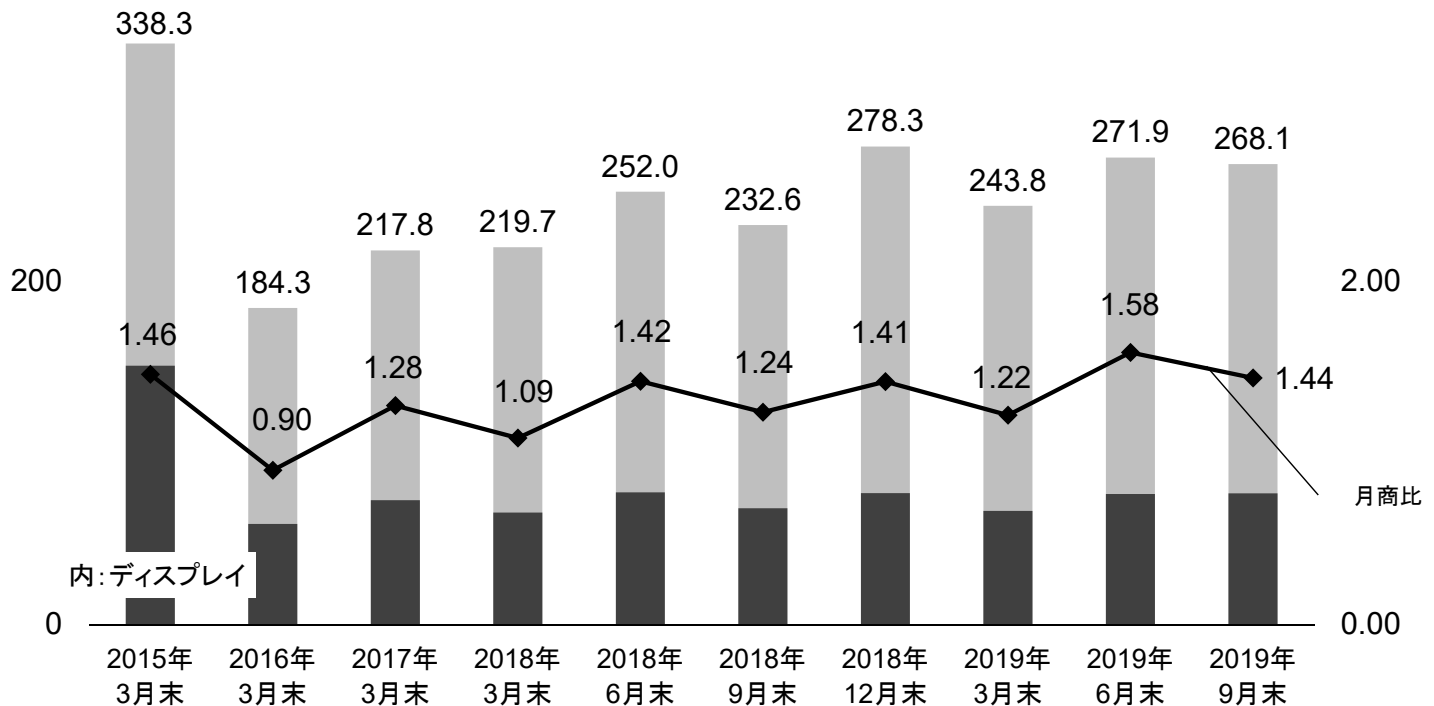
また、引き続き安定的に利益を計上していることから「純資産」は2,931億円に増加し、「自己資本比率」も、14.7%に上昇しております。

# たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、2019年6月末の2,719億円に対し、2,681億円に
- ・今後の販売計画等を勘案し、引き続き適正な在庫水準を維持

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



SHARP

12

- ・ 次のスライドは、「たな卸資産」の推移です。
- ・ 2019年度 第2四半期末の「たな卸資産」は、第1四半期末の 2,719億円から 2,681億円に減少し、月商比も、0.14ヶ月減の 1.44ヶ月となっております。

今後の販売計画や デバイス顧客の需要動向等を勘案した適正な在庫水準となっております。

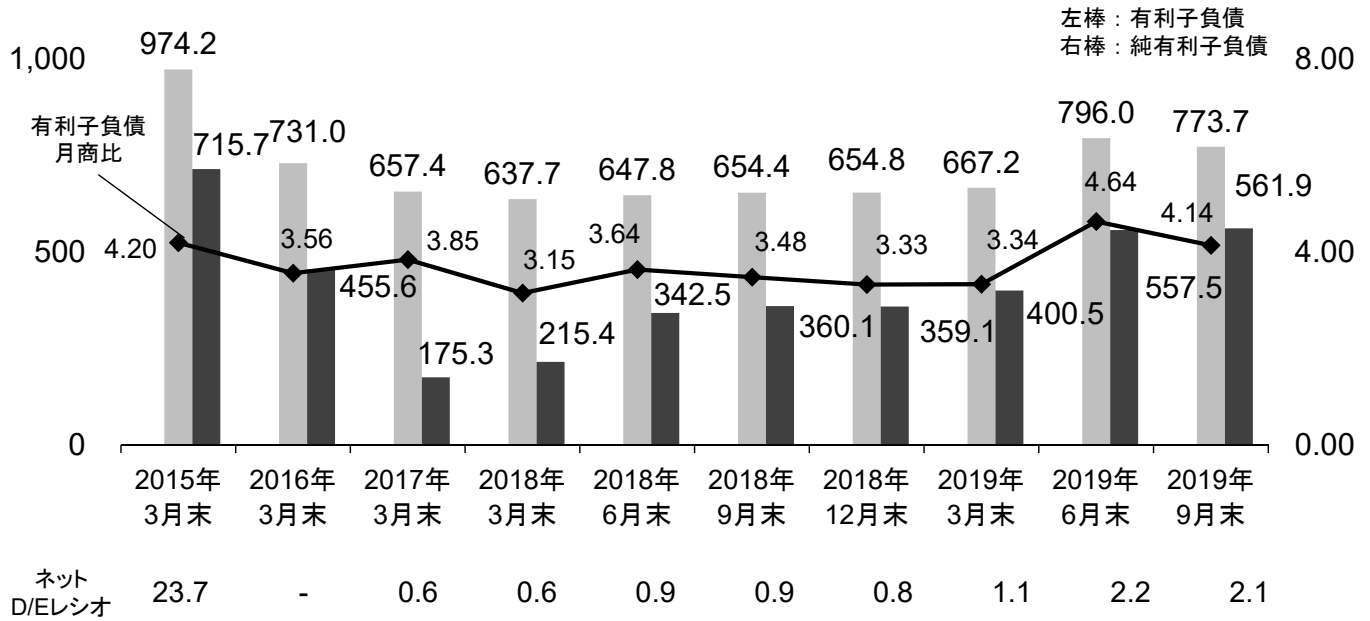
- ・ 引き続き、事業環境の変化を注視し、適正な在庫水準の維持に努めてまいります。

# 有利子負債の推移

- ・有利子負債は、2019年6月末の7,960億円に対し、7,737億円に  
月商比は、4.64ヶ月に対し、4.14ヶ月に
- ・純有利子負債※は、6月末の5,575億円に対し、5,619億円になる

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



※純有利子負債：有利子負債 - 現預金

**SHARP**

13

- ・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。
  - ・ 2019年度 第2四半期末の有利子負債は、  
第1四半期末の7,960億円に対し、7,737億円となりました。
- 純有利子負債は、  
第1四半期末の5,575億円に対し、5,619億円となっております。
- ・ 今後とも、在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、  
キャッシュフローの改善を図ります。

## 2019年度 下期の主な取り組み

「8K+5GとAIoTで世界を変える」の実現に向け、  
トランスフォーメーションの加速による成長力の強化を進める

- (1) 顧客需要の回復を着実に取り込むことで、  
デバイス事業やディスプレイ事業は大幅に回復
- (2) 新規顧客を獲得し、欧米・中国などグローバルで事業を拡大
- (3) エネルギー事業を始め、白物家電やテレビでもB2B事業を強化
- (4) 5Gサービスの開始にあわせ、タイムリーに対応機器を展開
- (5) 8K機器など新規商材による事業の強化
- (6) IoTやクラウド、スマートライフなどのサービスを拡大
- (7) 異業種協業やM&Aなども活用し、上記の施策を着実に実現

**SHARP**

14

- ・ 次のスライドをご覧ください。2019年度 下期の主な取り組みをご紹介します。既存事業の維持・強化を図るとともに、事業変革、具体的には、「商品/サービスのUpgrade」「市場のExpansion」「新規事業の創出」を進めてまいります。
- ・ その1つ目は、顧客需要の回復への対応です。これら需要を確実に取り込むことで、デバイスやディスプレイは、大幅に回復すると見ております。
- ・ 2つ目は、新規顧客の獲得です。ローカルフィット製品の投入により、欧米や中国などで新たな顧客を獲得するなど、グローバルで事業を拡大してまいります。
- ・ 3つ目は、B2B事業の強化です。エネルギーソリューションのみならず、B2C事業が中心だった白物家電やテレビ事業などでも、積極的にB2B事業を展開してまいります。
- ・ 4つ目は、5Gサービスへの対応です。これまで培ってきた通信技術やノウハウを活用し、国内でのサービス開始に合わせ、タイムリーに5G対応機器を投入してまいります。
- ・ 5つ目は、新規商材の投入です。テレビやビジネスソリューションで8K関連機器を拡充するなど、これまでにはなかった商材を開発し、新たな事業を創出してまいります。
- ・ 6つ目は、IoTやクラウド、スマートライフなどサービス事業の拡大です。新たに立ち上げたSHARP COCORO LIFEやAIoTクラウドも活用し、全社でサービス事業の強化を進めてまいります。
- ・ 最後は、異業種連携やM&Aの活用です。これまでの枠組みにとらわれない柔軟な発想で、早期に新たな商材や販売ルートを確保し、ご紹介させていただいた施策を着実に実現してまいります。
- ・ これにより、トランスフォーメーションの加速による成長力の強化を進め、「8K+5GとAIoTで世界を変える」を実現してまいります。

# 2019年度 通期 連結業績予想

(単位:十億円)

	2018年度	2019年度			
	通期	上期	下期予想	通期予想	前年比
売上高	2,400.0	1,120.6	1,529.4	2,650.0	+10.4%
営業利益	84.1	36.9	63.1	100.0	+18.8%
(利益率)	(3.5%)	(3.3%)	(4.1%)	(3.8%)	
経常利益	69.0	33.1	61.9	95.0	+37.7%
(利益率)	(2.9%)	(3.0%)	(4.0%)	(3.6%)	
親会社株主に帰属する 当期純利益	74.2	27.3	52.7	80.0	+7.8%
(利益率)	(3.1%)	(2.4%)	(3.4%)	(3.0%)	
平均為替レート					
ドル円	109.91	107.63	105.00		
ユーロ円	126.90	119.91	120.00		

**SHARP**

15

・ 次のスライドは、2019年度 通期の業績予想になります。

・ 期初の想定に比べ、進捗がやや後ずれしている事業もありますが、業績は着実に回復しております。

先ほど ご説明させていただきました さまざまな施策を確実に遂行することで、下期につきましても、業績の伸長を図ることができるものと考えております。

なかでも、商品事業では、

マーケットの変化にあわせ5G対応機器などを投入する通信事業、ローカルフィット製品でグローバル展開を強化する白物家電事業、8K/4Kやスマートテレビなど国内外で商品ラインアップを強化するテレビ事業で、大幅な増収を見込んでおります。

また、デバイス事業でも、回復基調にある顧客需要を着実に取り込むことで、スマートフォン向けやPC・タブレット、産業用ディスプレイなどが、大きく伸長する見込みです。

加えて、季節要因などによる販売増も想定しております。

・ こうしたことから、2019年度 通期の業績予想は、期初の公表を据え置いております。

・ 引き続き、全社を挙げて、One SHARPで、業績予想の達成に取り組んでまいります。



## Ⅱ．補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめております。
- ・ 当社の業績は、着実に回復しておりますが、米中通商協議の進展など、不確定要素も多く、予断を許さない状況は継続すると考えております。

今後も、事業環境の変化を注視するとともに、柔軟な対応を行い、さらなる業績の回復に取り組んでまいります。

また、財務体質の改善や株主価値の向上も図ってまいります。

- ・ 引き続き、事業基盤の強化を進めるとともに、「8K+5G」と「AIoT」で、さまざまな社会課題の解決に貢献し、皆様から、さらに信頼していただける企業を目指してまいります。
- ・ ご清聴ありがとうございました。

# 連結業績概要

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	通期	上期	下期予想	通期予想
売上高	1,129.0	1,271.0	2,400.0	1,120.6	1,529.4	2,650.0
営業利益	47.0	37.1	84.1	36.9	63.1	100.0
(利益率)	(4.2%)	(2.9%)	(3.5%)	(3.3%)	(4.1%)	(3.8%)
経常利益	43.2	25.7	69.0	33.1	61.9	95.0
(利益率)	(3.8%)	(2.0%)	(2.9%)	(3.0%)	(4.0%)	(3.6%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	40.9	33.2	74.2	27.3	52.7	80.0
(利益率)	(3.6%)	(2.6%)	(3.1%)	(2.4%)	(3.4%)	(3.0%)

# 四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
売上高	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9	605.6
営業利益	24.8	22.2	21.2	15.8	14.6	22.3
(利益率)	(4.6%)	(3.7%)	(3.3%)	(2.5%)	(2.8%)	(3.7%)
経常利益	21.2	21.9	18.8	6.9	13.9	19.1
(利益率)	(4.0%)	(3.7%)	(2.9%)	(1.1%)	(2.7%)	(3.2%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	19.2	21.7	22.1	11.1	12.5	14.8
(利益率)	(3.6%)	(3.7%)	(3.4%)	(1.8%)	(2.4%)	(2.5%)

# セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度
	上期	下期	通期	上期
スマートライフ	438.4	458.1	896.6	414.0
8Kエコシステム	628.7	684.7	1,313.5	574.4
ICT	100.5	182.3	282.9	180.3
小計	1,167.8	1,325.2	2,493.0	1,168.8
調整額	-38.7	-54.2	-93.0	-48.1
合計	1,129.0	1,271.0	2,400.0	1,120.6

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

# セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度
	上期	下期	通期	上期
スマートライフ	14.5 (3.3%)	16.3 (3.6%)	30.9 (3.4%)	18.6 (4.5%)
8Kエコシステム	27.3 (4.3%)	20.0 (2.9%)	47.3 (3.6%)	17.6 (3.1%)
ICT	9.7 (9.7%)	11.6 (6.4%)	21.3 (7.6%)	11.0 (6.1%)
小計	51.6 (4.4%)	48.0 (3.6%)	99.6 (4.0%)	47.3 (4.1%)
調整額	-4.6	-10.9	-15.5	-10.4
合計	47.0 (4.2%)	37.1 (2.9%)	84.1 (3.5%)	36.9 (3.3%)

※()内の数字は営業利益率です。

## 四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
スマートライフ	203.1	235.3	233.1	224.9	180.6	233.3
8Kエコシステム	291.1	337.6	350.4	334.2	262.5	311.8
ICT	56.9	43.5	78.2	104.1	96.5	83.7
小計	551.3	616.4	661.8	663.4	539.8	628.9
調整額	-17.4	-21.3	-19.3	-34.8	-24.8	-23.3
合計	533.8	595.1	642.5	628.5	514.9	605.6

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

## 四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
スマートライフ	5.6 (2.8%)	8.9 (3.8%)	11.1 (4.8%)	5.1 (2.3%)	6.2 (3.5%)	12.4 (5.3%)
8Kエコシステム	14.1 (4.9%)	13.1 (3.9%)	13.2 (3.8%)	6.8 (2.1%)	6.5 (2.5%)	11.0 (3.5%)
ICT	7.3 (12.9%)	2.3 (5.5%)	2.8 (3.7%)	8.7 (8.4%)	7.3 (7.6%)	3.7 (4.5%)
小計	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)	27.2 (4.1%)	20.8 (3.1%)	20.1 (3.7%)	27.2 (4.3%)
調整額	-2.2	-2.3	-5.9	-4.9	-5.5	-4.8
合計	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)	15.8 (2.5%)	14.6 (2.8%)	22.3 (3.7%)

※()内の数字は営業利益率です。

# 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2018年度			2019年度		
	上期	下期	通期	上期	下期予想	通期予想
設備投資	27.8	28.1	55.9	29.3	40.7	70.0
内:ディスプレイ	9.2	14.5	23.8	10.2	23.2	33.4
減価償却費	34.5	37.3	71.9	30.8	39.2	70.0
研究開発費	53.8	54.7	108.5	49.9	60.1	110.0

(単位:円)

平均為替レート	2018年度			2019年度	
	上期	下期	通期	上期	下期予想
米ドル	109.27	110.55	109.91	107.63	105.00
ユーロ	128.34	125.47	126.90	119.91	120.00

SHARP

23

# 四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2018年度				2019年度	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
設備投資	11.3	16.4	14.7	13.4	9.0	20.2
内:ディスプレイ	4.4	4.7	8.3	6.2	3.6	6.6
減価償却費	17.1	17.3	18.9	18.4	14.9	15.9
研究開発費	30.4	23.3	32.0	22.6	28.9	21.0

(単位:円)

平均為替レート	2018年度				2019年度	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
米ドル	108.07	110.46	111.90	109.21	108.90	106.35
ユーロ	128.56	128.12	127.28	123.66	121.99	117.84

SHARP

24

# SHARP

Be Original.

